

2023仙台市議選 立候補予定者 こども子育て政策に関するアンケート

回答者名【 ごうこ正太郎 】 立候補予定選挙区【 青葉区 】

問1. 仙台市では、保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業を行っていますが、どのように評価していますか。

良い評価をしている一方懸念もあります

個人的には保育所経営の立場から当選当初より保育園を作るよりも保育士充足への予算拡充に主眼を向けたほうが待機児童問題を解決できるのではという立場で議論しておりました。その段階で保育園の数自体は多くの地域で過多となっている印象で、その当時から保育園の経営モデル上、空き定員が出た場合に小規模になればなるほど経営問題になりやすいモデルとなっているため、保育所の空き定員問題を危惧しており、議会で何度も議論しており、実際に保育園の空き定員は徐々に深刻化しています。その経営問題に対し補填も出来る考えるため良い評価をしているところです。また、子どもの視点で見ても成長段階で保育所という、いつもと違う環境で受ける刺激も貴重な機会であること、保護者の視点からしても育児疲れなどの相談も多いことからレスパイト機能としても期待をしています。

また子育てをするにあたり所謂パパ友・ママ友の存在は非常に重要であることは私自身も感じており、また様々な研究で指摘されています。保育所は継続的に保護者のコミュニティを作ることが出来る機能にもなっており、同様のコミュニティを作ることが出来る仕組みも作ることが出来れば、さらに良いものになるのではないかと考えています。

一方この事業は8月からスタート予定ですが単年度予算です。事業のランニングをしながら検証も同時並行で行い次年度以降も継続できるようにすべきと考えます。

問2. 仙台市発達相談支援センター（アーチル）が、受付から相談対応まで最大4ヶ月かかることに対して、どのようにお考えですか。

大変危惧しており、今まで3回の本会議で取り上げて参りました。

この問題は単純にアーチルを増やすという議論では根本的な解決は遠いと感じており、昨年アーチル相談前の相談支援事業の拡充を議会で提案し本年から予算化されました。その結果多少は改善傾向があるものの、いまだに待ち期間が長いという相談もあるところで先日もアーチルに訪問し意見交換を行って参りました。

アーチルの職務分掌の見直しや、各区役所業務の見直しなど根本的なところから議論を行わなければいけないと考えています。またデジタルライゼーションによる相談窓口を明確に分けるなども検討すべきと考えます。

問3. 厚生労働省は、インクルージョンを推進していく上では、児童発達支援と幼稚園・保育所等との併行通園を推奨していくことが重要としていますが、どのようにお考えですか。

有用であると考えています。

従来の政策では専門家による個別支援が中心ですが、社会との距離が出来てしまう可能性が指摘出来ます。そのため子どもと家族のウェルビーイングの向上も同様に重要と考えています。我が国の目指す共生社会の福祉を鑑みると、保護者のレスパイト・子育て世帯のQOL向上障がい児自身の早期教育段階での刺激の面から早い段階で多様性を持った人との共生を学ぶ併行通園は肝要です。一方で障がい児やその保護者、またその他の家族の不満や不安がなくなる環境整備が必要であり、関係職員の多忙な原状を考えると求められる機能を発揮できない可能性も指摘できます。

そのため多様なステークホルダーの立場に配慮した支援連携体制の構築が急務と考えています。

問4. 仙台市には、障害のある子どもを保育園に預けたくても預けられず、就労を諦めている人が一定数おります。この現状についてどう思われますか。

現在障がい特性を持つ子どもの保護者の常勤雇用率が大変低いことに危惧しています。

この件についても多くの相談があり、私もアーチルと議論させていただいています。この受け入れ保育体制については本会議で議論もしたことがあります。ミスマッチの問題も存在します。これらを紐解きながら議論することが肝要と考えています。

本市では障害者差別解消条例が6月議会で改正されたところですが、これは保育士や教員への障害理解教育も含まれたものであり、この条例を速やかに実効性のあるものにしていくことで保育園などの受け入れ態勢を整えることが必要だと考えています。

問5. 仙台市の医療的ケア児の保育所受入れ人数は100万人当たり4.6人で、政令指定都市20都市中17位です。この現状についてどう思われますか。

早急に改善すべきと考えます。

この問題も本会議で議論してきましたが、本市では公立保育園で名目上全て医ケア児受け入れ可能、また民間園でも受け入れ可能なところがありますが、医ケア児の保護者でそのことの周知が出来ていない例や、諦めに近い感情をお持ちの方もいらっしゃる認識をしています。これを積極的に訪問や検診時に広報することで数字上改善できる場所です。しかし、当局が「受け入れが困難」という印象を持っているであろうケースも存在しており、これに対しては公立園を中心に受け入れ態勢の整備も肝要です。

問6. その他、コメントあればお願いいたします。

日頃より本市の保育行政について様々活動頂いていることに敬意を表します。特に医ケア児の本市の対応については勉強をさせていただいているところです。今後とも子育てしやすい街づくりのために力を尽くして参る所存でございますのでご指導の程よろしく願いいたします。

子ども達のために、日本を変える

Florence